

財政プロジェクトに参加した感想

阪南市職

財政分析の目的や意義は理解できましたか	近隣市との比較を行うことで、本市の財政状況やブロック内での位置づけが分かり、非常にためになった。また、本市の弱点や課題などが抽出でき、改めて理解できたとともに、交渉材料の引き出しが増えた。
財政分析の項目や指標でよく理解できた項目と分からなかった項目	歳入や歳出の一つ一つの項目（ミクロ）は、ある程度理解できたが、それらの要因が色々つながっている部分（マクロ）までは分析できずに理解不足のまま終わった感がある。また、都市財政診断の各指標については、聞いたことのある言葉のため、何となく理解していたつもりであったが、今回分析を進めていくにつれて用語集を読み直すも、十分に理解できずに終わっているのが残念である。
プロジェクトに参加して財政分析を行った感想	交渉時において、“財政状況”という言葉が必ずついてくるが、一職員として「厳しい」というイメージだけをもって、“何がどう厳しいのか”という部分まで踏み込んで考えたことがなかった。（財政は難しいという固定観念もあり）しかし、今回の財政分析を通じて、職員としても市職執行部役員としても、一歩踏み込むことで何らかの課題や協議すべき事項が見えてくるのが気づけた。 また、財政分析を行っている際、自分の立ち位置が分からなくなった。 特に、歳出の財政分析を行っている時に、これまで人員確保や職員の処遇改善などの交渉で我々の要求に対する当局からの回答と、今回分析を進めていくうちに自分が導き出した内容が同じところに行きついてしまう部分が往々にしてあり、非常に戸惑った。
今後の課題や抱負	今回の財政分析を通じ、市の財政状況等の基礎的な部分は理解できたと思うので、可能な範囲で他の市職執行部役員にも広げていき、市職執行部役員内での活性化やさらに踏み込んだ財政分析につなげ、交渉材料等を見出していきたい。 また、今回の分析によって私が感じた“財政状況”の意味を十分に踏まえ、バランス感覚を持って当局とは是非々の議論・交渉を行っていきたい。
プロジェクトや会議の運営について改善すべき点	<ul style="list-style-type: none">・会議のコマ数をもう1～2回程度増やして、基礎的な部分（指標や分析方法など）に時間をかけてほしいと感じた。・1か月に1回程度の開催であれば、時間が経てば忘れてしまいがちなので、もう少し期間を短くしても良いのではないかと感じた。・今回の財政分析プロジェクト会議の更新データを今後も行ってほしい。（メール等での配信をお願いしたい）・1年に1回程度、これまでの本プロジェクト参加者を対象とした研修会を開催してほしい。（国や大阪府などの予算状況など）